

令和7（2025）年度 資源評価調査報告書（拡大種）

種名	クロソイ	対象水域	日本海北部（青森県～石川県）
担当機関名	水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター、青森県産業技術センター水産総合研究所、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター	協力機関名	

1. 調査の概要

青森県（日本海側～陸奥湾の主要21港）、秋田県、山形県、新潟県、富山県、石川県（主要10港）における月別漁業種別水揚量を集計し、漁獲状況を把握した。ただし、キツネメバルやタヌキメバルなどの近縁種を区別していない場合が多く、その組成も不明である。現状ではクロソイと報告にあったデータを漁獲量として集計し、解析を行った。

2. 漁業の概要

日本海北部海域におけるクロソイは、主に定置網と刺網によって漁獲される（図1）。その2漁法が全体に占める割合は、2024年では79.2%だった。2019年からの集計以降、漁獲量はほぼ横ばいであり、2024年の漁獲量は77.5トンであった。そのうち青森県（60.5%）が過半数を占め、続いて新潟県（15.3%）、秋田県（14.0%）、山形県（5.8%）、富山県（3.0%）、石川県（1.5%）の順に漁獲割合が高い（図1）。一年を通して漁獲されるも、日本海北部における主漁期は1～5月であり、青森県を除く秋田県～石川県では4月前後が漁獲のピークとなる（図2）。

3. 生物学的特性

(1) 分布・回遊：北海道全域、青森県～長崎県の日本海・東シナ海沿岸、青森県～千葉県銚子の太平洋沿岸、瀬戸内海、河北省～浙江省の中国沿岸、朝鮮半島全沿岸～間宮海峡をへてサハリン南東岸・西岸、千島列島南部と、極めて広い範囲の沿岸部に分布する（武藤 2018）。成長・繁殖に伴う局所的な回遊をすることが知られており、2歳魚までの若齢個体は20m以浅の岩礁帯や小波堤防に、成長に伴い100m程度の水深帯で生息する。夜間に活動的となり、視覚に基づいた強い帰巢性を持つことが知られている（Kuroda et.al. 2021）。

- (2) 年齢・成長：全長は1歳で15 cm、2歳で24 cm、3歳で32 cmと推定される（佐々木 1989）。海域によって成長やその性差が異なるとされ、青森県のクロソイでは5歳以降で雌が大型化するとの報告がなされているものの（佐々木ほか 2004）、新潟県や宮城県海域では明瞭な差は認められていない（酒井ほか 1990、図3）。
- (3) 成熟・産卵：卵胎生魚であり、雄雌ともに4年で全ての個体が成熟する。11～12月に交尾し、4月下旬から5月上旬に20～30 m帯に接岸して産仔する（佐々木 1989）。仔魚は全長7 mm程度であり、藻場や岩礁域に生息する（武藤 2018）。
- (4) 被捕食関係：小魚、甲殻類、多毛類などを捕食する。種苗生産においては、産仔された個体にアルテミア、ワムシ、配合飼料を用いて飼育を行っている（中川 2008）。被食関係は不明である。

4. 資源状態

本種の水揚量集計においては、キツネメバルやタヌキメバルなどの近縁種を区別していないか一部混同している場合が多く、現段階では本系群における有効な資源量指標値は得られていない。なお参考情報として、2024年において漁獲の約6割を占めた青森県では、2007～2015年までの範囲で約50トンと漁獲量が概ね一定であり、2017年にかけて125トンまで増加した。しかし、その後は減少、2021年以降横ばい傾向にあり、2024年は47トンであった（図4）。

5. その他

今回扱ったデータにはクロソイ以外にもキツネメバルやタヌキメバルなどの近縁種が含まれていた。資源評価を行う上で、これら近縁種を除外したキツネメバルの漁獲量を把握することが重要だが、クロソイと近縁種を区別して漁獲量を集計することは極めて困難と考えられる。

6. 引用文献

- Mitsuki Kuroda, Yoshinori Tatsu, Yuya Ueda, Hokuto Shirakawa, Kenji Minami, Kazushi Miyashita, and Makoto Tomiyasu (2021) SITE FIDELITY AND RETURN TRIPS OF VISUALLY AND OLFACTORILY INHIBITED BLACK ROCKFISH (SEBASTES SCHLEGELII) INDIVIDUALS TRACKED BY ACOUSTIC TELEMTRY. *Journal of Marine Science and Technology*, **29**, 158-167.
- 武藤望生 (2018) スズキ目メバル科クロソイ 「日本魚類館」中坊徹次編, 株式会社小学館, 東京, 206.
- 中川雅弘 (2008) クロソイの栽培漁業技術開発に関する研究. 水産総合研究センター研究報告, **25**, 223-287.
- 酒井敬一・川村亨・熊野芳明 (1990) 南三陸周辺水域におけるクロソイの年齢と成長. 宮城県水産試験場研究報告, **13**, 10-20.
- 佐々木攻 (1989) 日本海におけるクロソイの増養殖. 日本海ブロック試験研究集録, **15**, 85-90.

佐々木正義・蜜谷法行・西内修一・塩川文康・高橋豊美 (2004) 北海道後志沿岸におけるクロソイの年齢と成長. 水産海洋研究, **68**, 232-238.

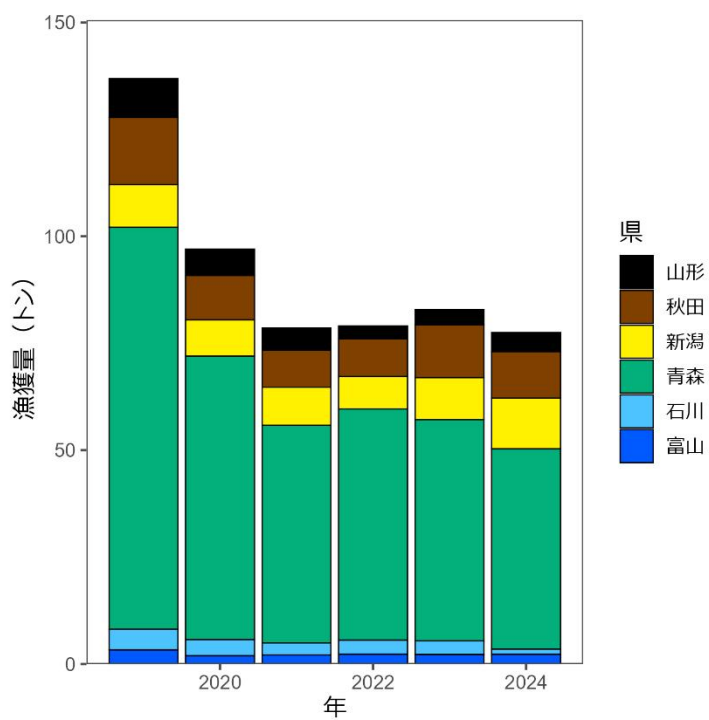
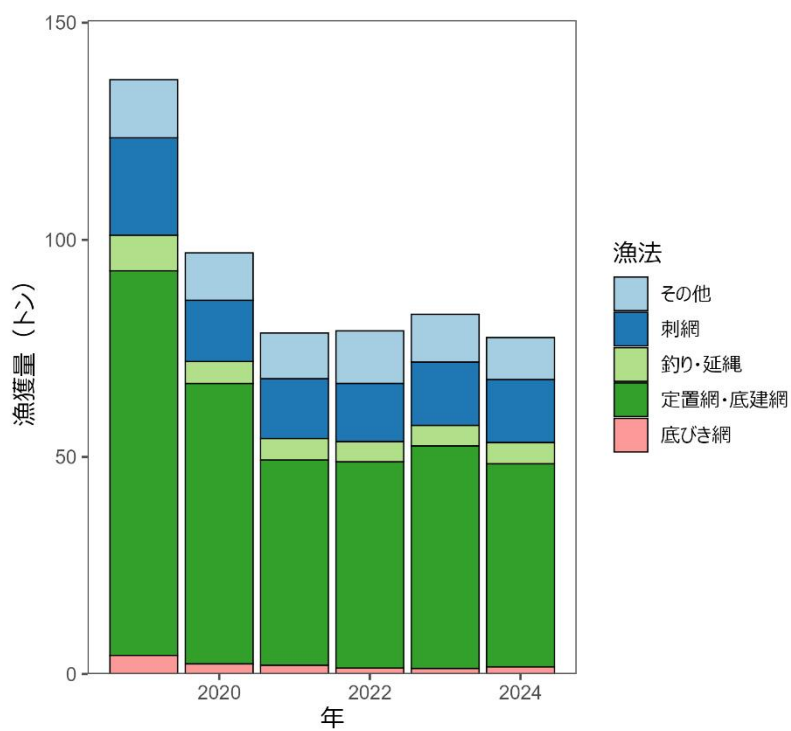


図1. 2019年以降における漁法別漁獲量(上)、県別漁獲量(下) 本データにはキツネメバルやタヌキメバルなどの近縁種の情報も含まれる。

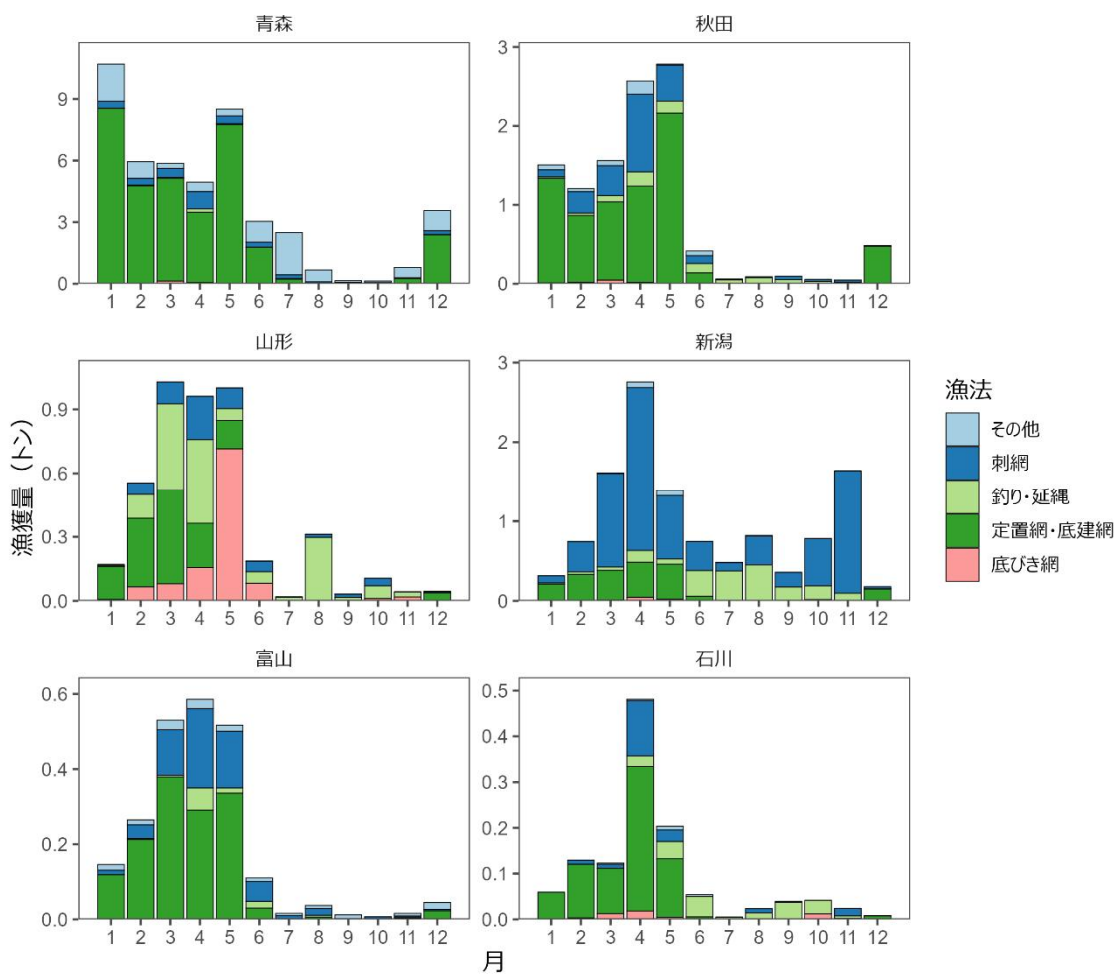


図2. 2024年における県別漁法別月別漁獲量

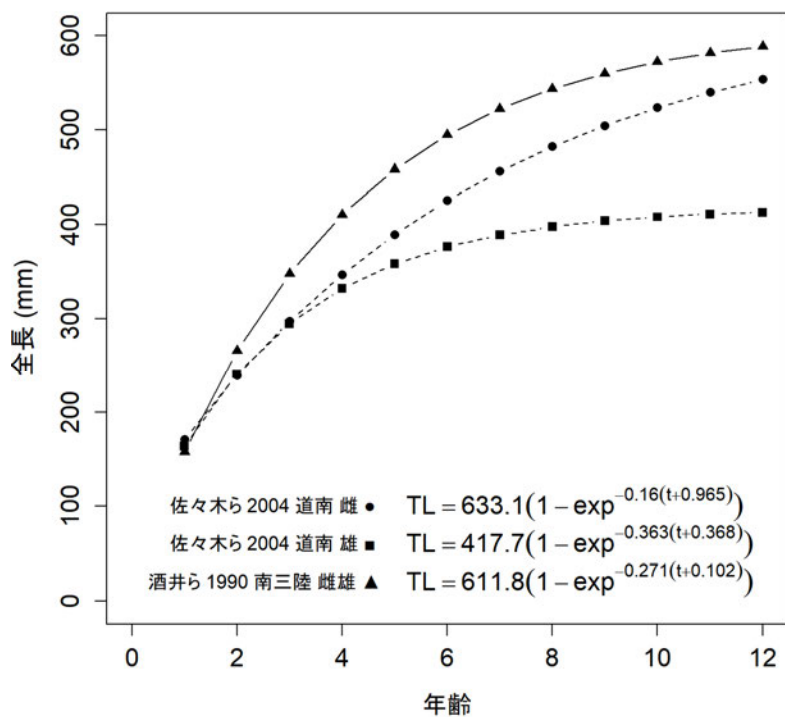


図3. クロソイの成長曲線（佐々木ほか（2004）および酒井ほか（1990）を改変）

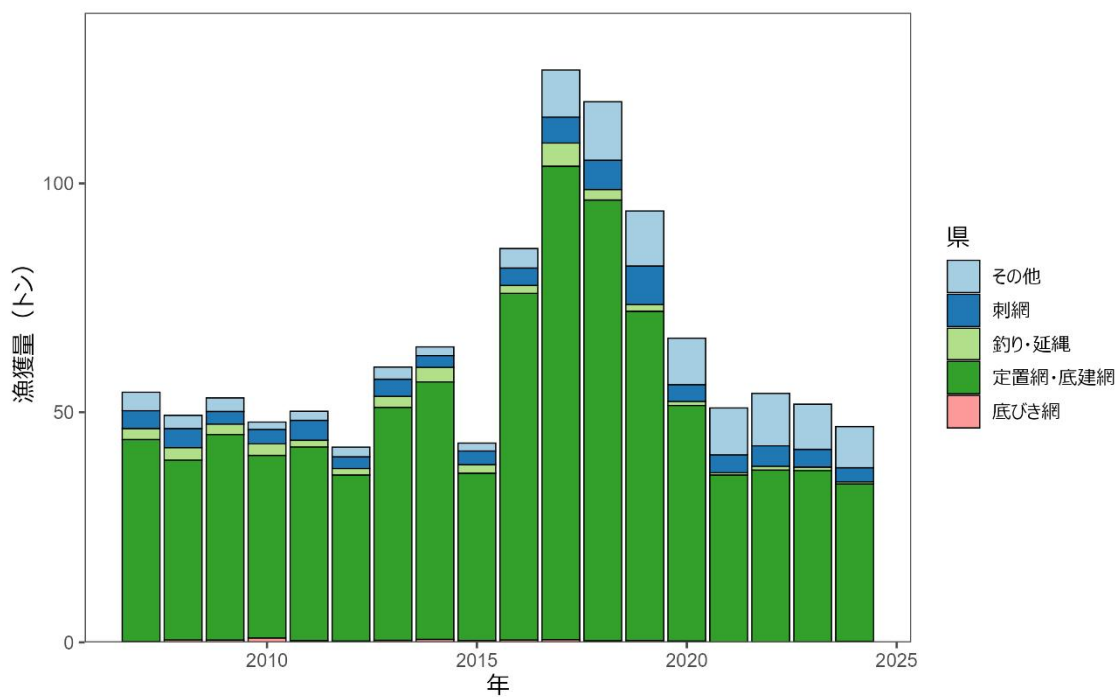


図4. 青森県における漁法別漁獲量